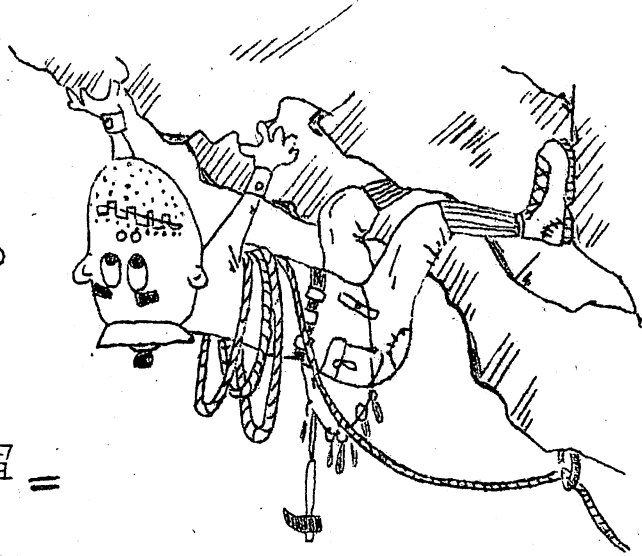


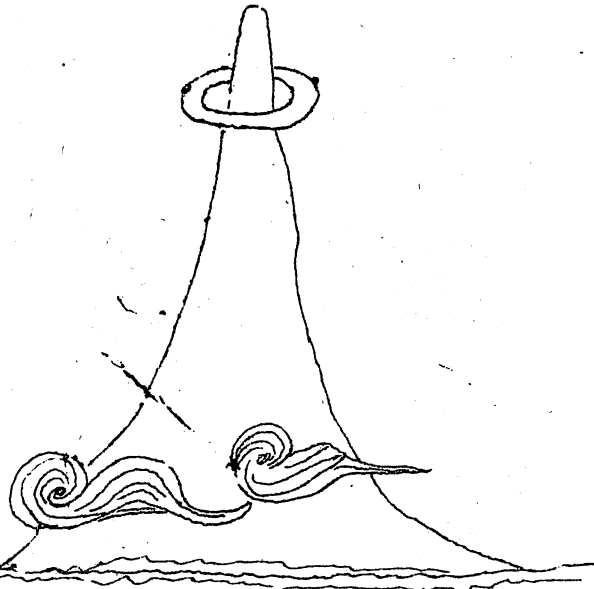
井 復



昭和42年度冬山台宿 =

報告書

針木岳



信州大学山岳会

伊那松本山岳部

<冬山合宿を終えて>

北ア後立は厳しかった。天候といい積雪量といい……。
沈黙日数は最大限使用し、石油の使用量も最後の一滴を使い切
つて下山した。常に余裕をもつて leader ship を確立するという
卓で自分自身は深く反省している。しかしながら、全員の意欲と体力
を最大限生かした合宿と言って良いだろうと思う。特に一年生に
とつては長い3日間であったと考える。細い卓を教えれば色々不
満な卓がある。

足のゆるみによる slip 事故が多かったのも考えさせられる卓だ。
大した事にもならず単がよかつたという事は大切だが、それらに
対して、これからは絶対に起こさなぬ様各自の反省の内に止めて
いて欲しい。

悪天候、そして凍傷にかかった者が多かつたという事では、但
人の体質もあるだろう。しかし、各自の小さな注意、ちよつとし
たズクでかかるとヒスイだのではなかつたかと思ふ。

アイゼンテックニツクに関する考えオとして、冬山に於て修得し
ようとすることは間違いない。冬山以前にプロ冬山として、アイ
ゼンテックニツク、特に荷をかついての講習をすべきである。
天気図の判読、作成に充分なる勉強をしている人がいた事は
残念である。それに短波の放送による予想天気図の作成に對して
もう少し訓練したオがよいと思ふ。専高線の引きオによって、ど
の日の行動が決まる場もありえるのだから。

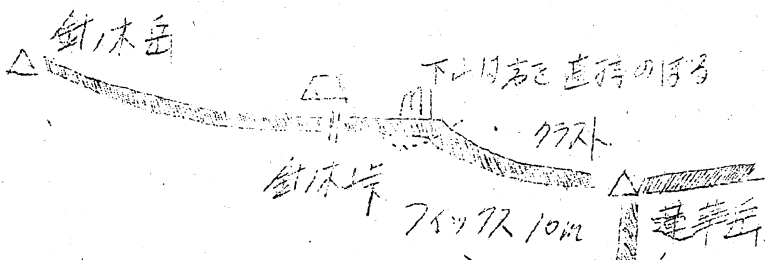
入山直前に Member の変更かおこなわれたが、身体検査に對する
卓があまかつた卓を反省している。事前に検査を行ない、余裕を
もつて計画変更にあたるべきであつた。特に内臓の病氣は自覚症
状に気がつきにくいので、普段から自分の体に注意し、初として
千エツクしておく必要がある。

入山前日の混乱はいふもあつたが、作業の分析と人員の
効果的な配置に對して考へてゆく必要がある。

最後に、各人が冬山に對して充分な認識をもつて入つた事は考
へ難い。下級生はもつと上級生と話をし、その考へ方オも理
解してゆかればよい。その基礎は、部として考へておく。
オとは各人がそれを生かすかどうかである。そうすれば少なくて
も腹を立てた回数が少なくなつて来たのではなかつたかと思ふ。

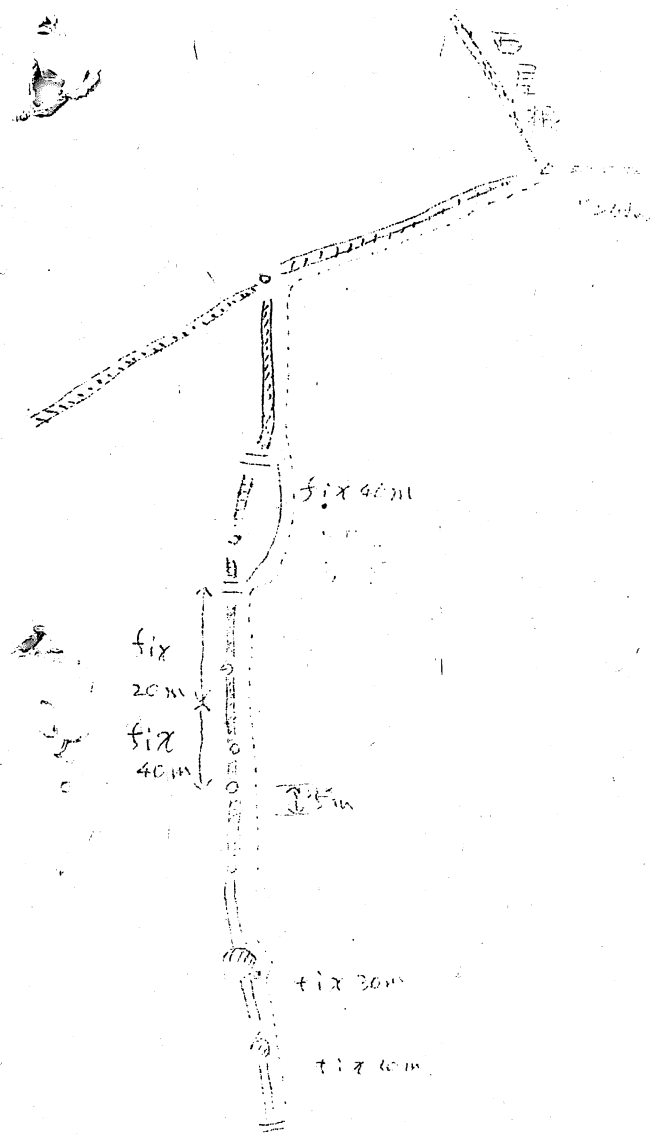
以上

内藤記

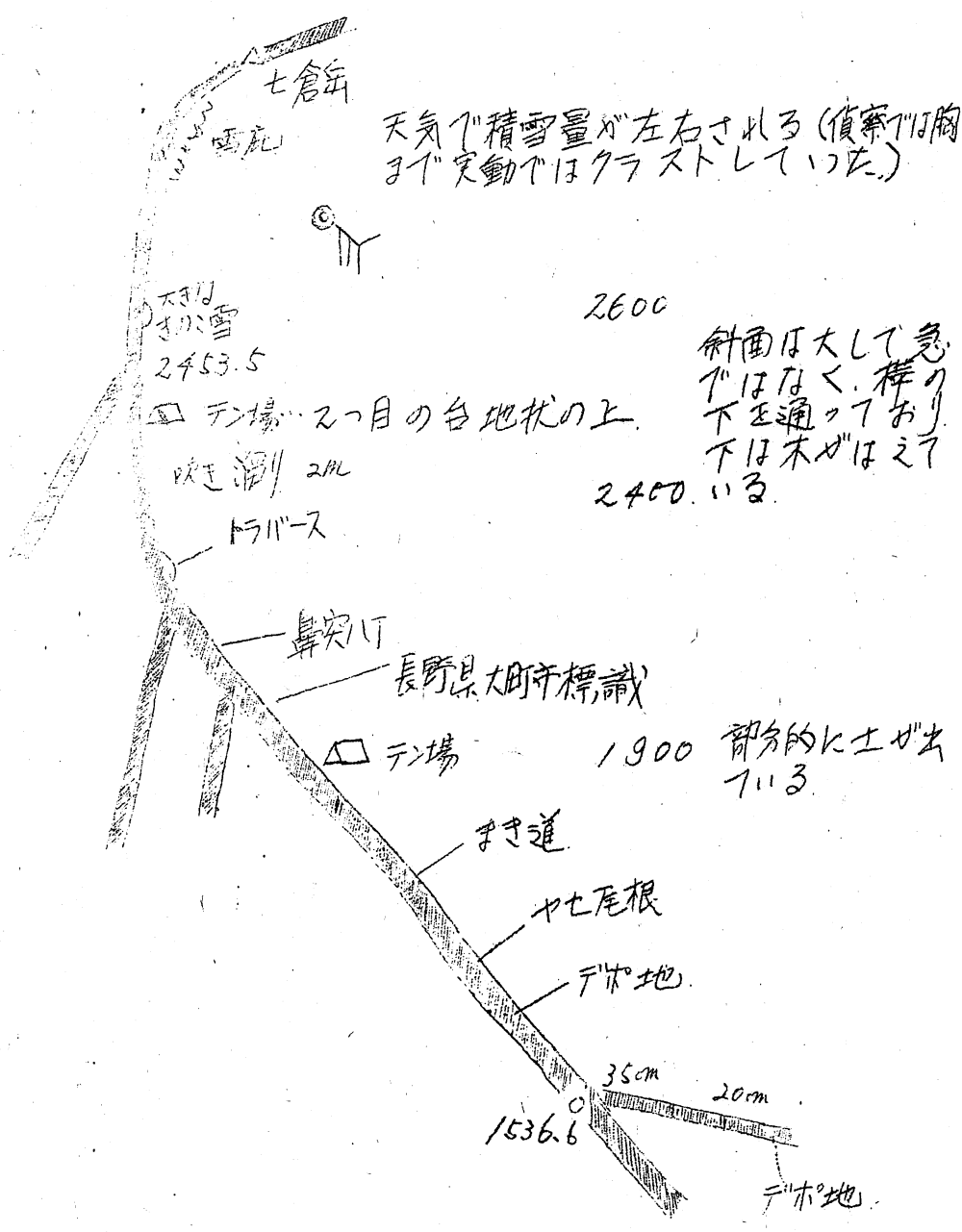


針木岳

クサリ場を横道と
おリトレス
テニ場あり
高約 1m
下り目ラマセル
クラスト170m前
の上に雪がの
けている
上部はクラスト
△北巻岳



二倉尾根



天気や積雪量が左右される(偵察時は胸まで突動ではクラストしていた。)

2600

斜面は大して急下はなく、稜の下を通っており、下は木がはえて2400. いる。

大3月3日の雪
2453.5

□ テン場... 2ヶ月の台地状の上

吹雪溜り 2m

トラバース

鼻突け

長野県大町市標識

□ テン場

1900

部分的に土が出ている

まき道

ヤセ尾根

テホ地

35cm

20cm

1536.6

テホ地

急な登りルートへ平らになる

急になる
岩が出ている所

14の段に11の
11の段がある

岩の出ている所を
トラバース

北葛岳
シグザクの夏道の上

11m
右のフィックス
ハミゴ

シグザクに夏道とおし

部分的にハイマツの上を通過
一ヶ所平たに岩が出ている

降り口は

トラバース

フィックス 5m

七倉岳

雪庇

1~2m厚い

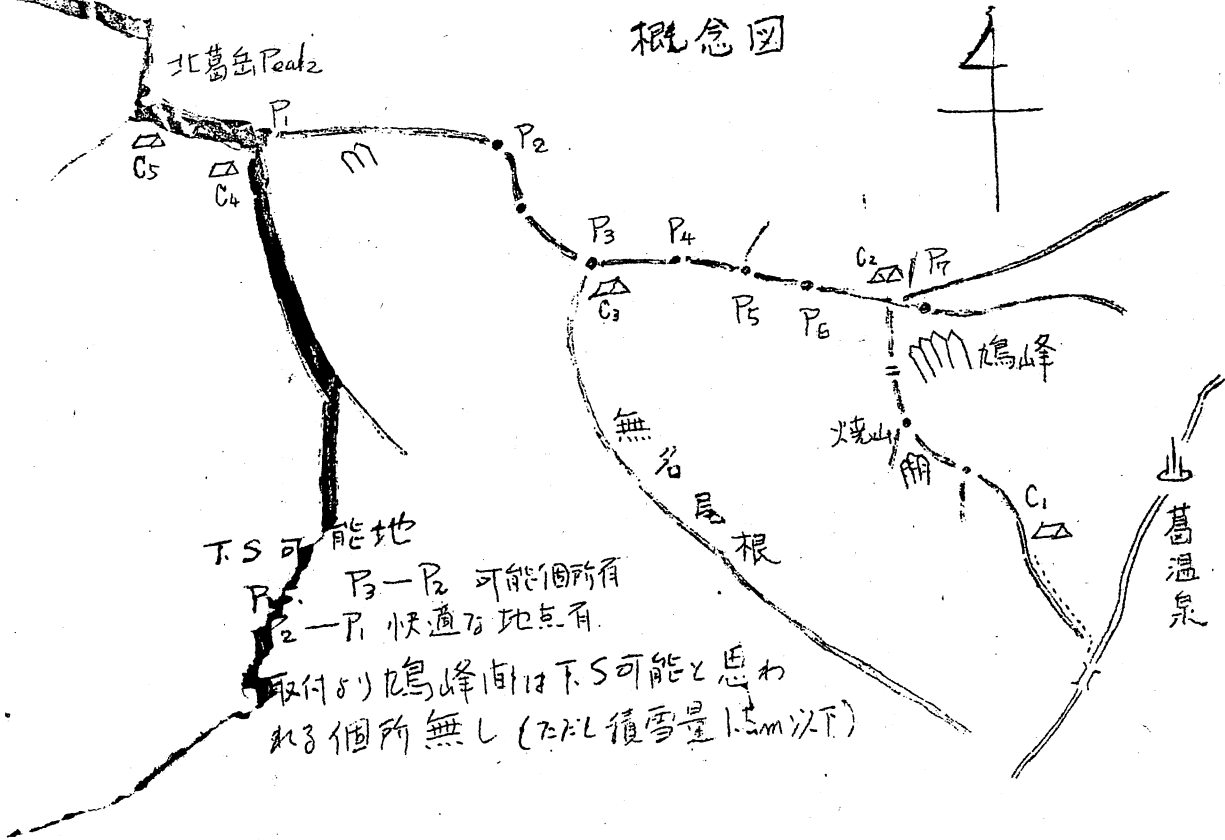
雪庇の変化は

干ノコ雪

北葛 Party

o Member 村田 岡村 山田 寺沢 猪飼
笠原 井関

o 聞きしにまさる素晴らしい尾根で計画行動予定をくわ
された。これは、偵察の甘さから、予定判断をつけにく
かったこと、又積雪が少なく、ゆせ尾根であり、その上、ブ
ッシュ、倒木という条件等で、テントサイトが限られたことから
ある。天気は良くなかったが、それ程ひどくくつれない
樹林帯があることから All weather 行動を取り、北葛岳
Peak 予定日合流をのぞし努力した次第。皆の体調は
良かったが今一つサイトに欠けた面もあった。以下
の記録である。 JOM 記



○ 行動表

	松本	葛温泉	最終点 偵察時	鳩峰	R5	R3	P1上部	北葛岳 直下TS
1	→ 2170112							12/24
2				←				12/27
3			←	←	→	→		12/28
4						→		12/29
5						←	←	12/30

○ 行動記録 and コースタイム

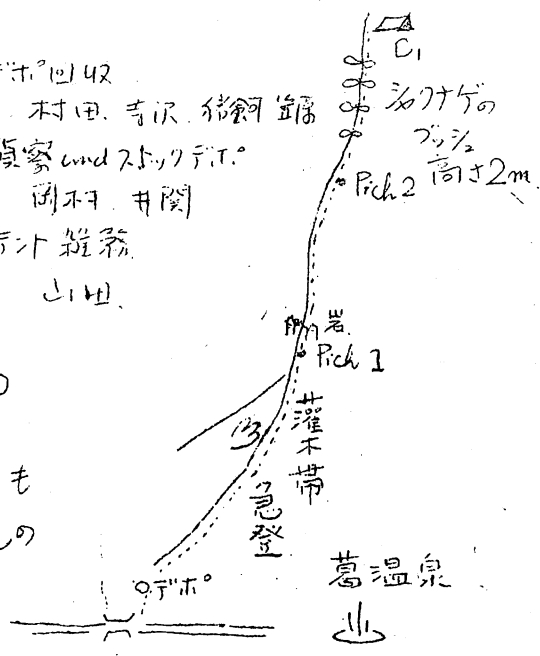
12月26日 ⊙ 4x6日 → ⊗

- 取付 7.30~7.50
- P1 8.40~9.00
- P2 9.55~10.15
- C1 11.10 偵察 and 幕営
- テポ回収迄 12.35
- テポ地 13.05~13.35
- C1 着 14.55 偵察院着 15.50

テポ回収
村田 寺沢 猪飼 錦
偵察 and ストックテポ
岡本 井関
テポ雑務
山田

感想

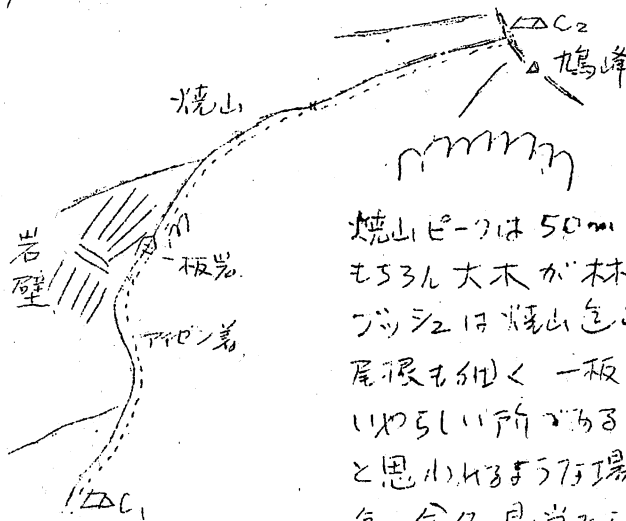
最初から急登にブッシュととも
キビシカット やと九鳥峰迄の
1/3を登った。 [笠原記]



12月27日

◎ → ① → ② → ⊗

C1 発 7.50 — 焼山登リアイトン着用 10.00 ~ 20 — 焼山P下
一枚岩 fix 5m cord 屋会 11.10 ~ 40 — 九鳥峰着 14.05



焼山ピークは 50m 程の細長いピークで
もちろん大木が林立する。流ワナゲの
ブッシュは 焼山を 包 繞 する。焼山付近は
尾根も細く一枚岩があたりて、少々
いやらしい所がある。テントサイトが可能
と思われような場所は、九鳥峰の少し下
を 全 々 見 当 たら ない。

設営後 偵察 兼 テント

本 発 15.05 — P 16.25 — P テント 16.55 ~ 17.10 —
帰幕 17.50 テント隊 村田 岡村 山田 笠原

12月28日

⊗

C1 テント回収 寺沢 猪飼

前進 P テント回収 村田 岡村 山田 笠原 井関

6.40 出発。30m 程 進 む と 細 い リッジの 岩 が 前 10m 程
の 悪 場。スルスル 滑 る を ワッパの 爪 を 引 け けて 登 る。すく 倒
木 が 2 本 程 あり 乗 越 せ ず。

7.15 1本。雪は ヒザ まで。吹 だ ま り の 所 は 腰 位。相 変 更 ず
倒 木 が あり シゴ け れ ば。すく と 尾 根 通 り に け ぐ。

8.35 1本。20分 程 で 前 日 の テント 地 点 通 過。こ っ ち ら は トレ ず
な く ラッセル を し て か ら 進 む。あ ぐ 30m 程 倒 木 が 続 き かつ、
小 岩 山 峰 を 過 ぎ 進 む。倒 木 が 少 く。5m 程 の 岩 稜 地 が 2 本
あ る。下 ぎ る 岩 の と こ り は 左 を ま ぐ。

ブッシュは雪が所々にあるが、雪に埋まり1m程しか出していない。時々風強く吹く。

10.35 P₃ 無名尾根 シンクッション 設営

11.30 岡村、村田、山田、井関 デポ地を引返し(12.00) 57kg
程ボツカ、13.10 テント場着、C₁ デポ回収隊 14.00着

<記、山田>

12月29日

出発 7.00 ◎ → アセン 9.00 → P₂ 通過 11.00 ◎ → P₁ 通過
15.30 → P₁ 上部下 S 15.40. ⊗ ◎

P₃ ~ P₂ 森林帯 ワパ、アイロン併用、以後この間行動係休

有。ブッシュはない。積雪量 1.5m.

P₂ — 樹高も低く、積雪量も増、風も強く受り、ラッセル深い。

12.00 頃より、風強く地吹雪。又13時頃から雪も降れる。

下SはP₁から少し北葛岳よりの北葛沢斜面を利用。

雑感

日本海にホツリ低気圧が発生したおかげで午前中は

割合おたやかな日であった。この為空には、ガスが向々に

時々太陽が見え、風は弱かえ。上部稜線は風が強くなり

七倉隊は泥濘のこと。午後に入り、低気圧の通過と共に天気

は荒れしく変わり、北葛尾根上部に出たときは、何れ強風の

為、凍傷にふたものが表われ、皆の体調も相当(精神的、肉

体的)に疲れた。この為急ぎ設営した次第。どうも

最後の1Pchはふかふかとしたが、尚良く頑着したと思ふ。

吹雪に負けず強い心を持つことも必要だと考える。

凍傷にたいして注意を再びおこした者がみられたのは残念で

めに。

記 村田

12月30日 ⊗ → ◎ → ⊗

P₃ デポ回収隊 寺沢 山田 笠原

前進 C₄ デポ回収 村田 岡村 猪飼 井関

七倉隊 サポート 岡村、村田

12月30日

尾デポ回収隊記録

- 8.00 下上部テント出発 雪風共少々。テント直下の雪壁の昨日のトレースはまったく見えず。全員ワッパにて快調に下る。
- 9.00 一本。昨日の三本目の所、風雪少々強くなる。
- 10.00 テポ地点に到着。樹林帯の悪場も快調に飛び、ここパンを食べたり、キジを打ったり(ながら ゆくり)パンキングして、10.45出発。天候はあいかわらず雪と少しの風。アイゼンにはきかえる。
- 11.30 樹林帯の悪部を一気にぬける。アイゼンワッパの併用。全くおどろく程の快調さ。パンを食べる。天候快回復後のまじしが見え雪かわる。
- 12.20 樹林帯を完全に抜け、雪の尾根の上で一休。このPichから三人でラッセルを交たしめる。太陽がみえ、久しぶりに日光に当たる。
- 13.15 一休。雪の尻尾(中)に当り。天候うまくなり。
- 13.45 北葛Peak下。テント着。 <寺沢記>

七倉 party

内藤 福原 山下 武藤 佐藤 井口
牧田 中田

12月26日

思誠寮と共々"party"をり一足先にマイクロで出発する。
幸い七倉手でマイクロで行くことができた。

7:00 七倉着

7:10 出発

7:20 七倉オネ取付き付近に Depo へ行く
30

9:05 足直ぐ三川のラッセルで急登を続け稜線に出る
15

出発後女子の体調がよからぬので、M君にお願い
して男子は先行トレースをつける。

11:20 山下・サトウ は 取付き点 Depo 回収に行く
内ト・武藤 井口 は先行する

12:20 皇つぎ八丁手前の予定地裏に Tent 設置

13:05 山下・サトウの荷を回収に向う

13:15 女子と出会う、Tentの整理等を依頼する

14:15 Depo 地裏にて武藤・井口は山下サトウの荷を回収

15:00 内ト・(山下 サトウ) が合流し Tent に戻る

16:30 Tent 帰着

19:00 弟1夜 執筆

ラッセルは殆んどなくスパツにて行動

27日

4:30 Essen 起床
7:10 出発 Depo まで行く
積雪は 30 ~ 40cm.

8:25 オールシーズンブーツ、ワカン着用

9:10 峠つぎハ丁取付き 履キシ

45

積雪 75cm 位

4:30 森林限界より 2つめの台地
Tent 設置

ラッセルは 5 ~ 11 ラッセルにし 2つめの台地 時と12分
般以上はももぐった。

28日

5:00 Essen 起床

4:30 4丁 MC 中田 サトウ 井口 まで
Depo 回収 に出発

8:35 Tent 場 着 Depo 回収

9:00

11:51 30' Tent 帰着

牧田 を Tent keeper として 内ト、山下 まで
七倉の 谷間 まで アイサツ 完全な 風雪 まで 早々に Tent
へ 帰る。 新雪の ラッセル は 2m 以上 も あった。

29日

沈

4:30 大断の刈がサえた。風中位
大事をとって沈

30日

七倉岳の peak に Depo して北葛に向う
風強く判断不足より1耳生に顔の凍症を防止す
後給は厳しく fix を3回使用する
Col への下りの fix を使用中 slip を防止す幸い事なき
を得た。

13:10 北葛岳 Tent 場に着 北葛 party と合流する
灰1振りの対面に喜ぶ

合流 party

31日

○ → ⊕

北葛 party は全日行動であり最も厳しい
針の木のブタックに日数がサマッている
行動半径を拡大することは好ましくない 故に理由
により本日は七倉の Depo 回収隊に針の木の
ライサツ隊を出すことにする。

七倉 Depo 回収隊 L 村田 イカイ ヨトウ

7:30 出発

11:30 帰幕

針の木の Depo 隊 L 内藤 福原 岡村 山下 寺沢
山田 サトウ 開園 井口 笠原

7:40 発

11:05 針の木の Depo 屋×3

40 針の木の Depo 屋が 10分位でガスに
つづる小地吹雪となる

13:50 Tent 着

1月1日 ◎w ⊗
沈

1月2日 ○ → ①
北葛岳の降りミテイサツ
全員で針の木岳へ向う
2:05 Tent 登
4:05 Col
25

蓮華の登りは殆んど夏とかわりなし

岩稜帯をぬけると全面 Wind クラスト 風が強く
一瞬の気のゆるみにたぬけ出る英が 20m slip
etop 体勢をとり自力停止 1名

11:30 L-5" peak 通過

12:45 峠着 Tent 設営

14:10 内ト・村田 で針の木岳へ fix 工作
にゆく

16:00 帰幕

1月3日 風強し ⊕ ⊗
沈

1月4日 ガス ⊗ Wind
沈

5日 ◎カス ⊗
全頁で Attack

7:45 Tent 巻

や> 風雪あり fix は忠実に 後編 エモヤツある
ので 厳しい

10:15 針の木 peak 昼食 サツエイ

カスと 風で 何もみえない。チョコレートを食べた
とこに下る

11:55 Tent 着 fix は下り 15 回 42 12 くる

6日 吹雪

4:30 Exam 起床 8:00 巻

下山隊 L 武蔵 岡村 福原 近藤 菅原 井口
井原 牧田 中田

縦走隊 L 内蔵 村田 山下 猪飼 寺沢 山田

縦走隊は下山隊のサポートに入る

{ 10:15 丸石尾根分岐にて下山隊に別れる

{ 11:05 峠の Tent に帰る

9:40 L=5 peak

積雪は 50cm 以上に達した

<下山隊>

10:40 フワフワエ>ける

12:00 森林帯に入る 昼食

17:15 Cal. Tent 設営

7日 6:30 起床

15:00 取付き
後泊

16:45 ホテル
クロヨン バス停
帰松

7日 縦走隊

6:50 起床

夜中のラッセルと目まがし加鳴らなかつた為

8:00 過ぎより 無風 晴小 となるも 針の木 peak

スハリ 方面には ガスが かがまいる

天気図 によると 3つの 低気圧の 頂度 真中に いる
台風の 目だ!!

気温は 相変らず 高く 外で -7°C

Text内は 夜中で $+7^{\circ}\text{C}$

9:00 現在 外 -7°C 内 $+8^{\circ}\text{C}$

ナダシのこと 及び 天気かつつづく 傾向を 考えて
晴れとする

8日

本格的な 吹き出し となり 午前 1:10 より 16:00 まで

ラッセル 困りは Text 5' と同じ 位 高くなる

いくと ラッセル 17 も すぐ に うまわて しまう ため

ラッセルに 飛び 出す 時は (雪) アルト (イテ) "U" "U" "U"
の 人 に なる ほう

目まがし かねて 小屋に 逃げ 込む こと になる

9日

移動 高に 望み を かけ 小屋に 戻り 込む

10日 石油 残高 が なくなつた

体力の 消耗 及び 今後 の 天気 を 考え 下山 と する

7:55 発

10:00 レンガ peak

丸石 尾根 を 過ぎ 小十郎 支那 まで 行った

無名 沢 に 入る 沢 は フラッシュ と カニバ かが ぼえ

ている が やはり 雪崩 が 気 になる

腰 までの ラッセル は 下山 という こと も 手 行 った
苦しい

13:30 籠川 に かかる つり 橋 を 渡り 道路 に 出る

何日 振り かに アセ"ン"フ"ン"パ"ー"ハ"ン"ス"
をとる

途中 タンク を とめ じ"ち"に あり 帰 松

梱包係反省

山田

- 塗料は奥島O.B.よりいたいたラッカーを使用したか臭いはぬけていた様だ。これは大部分入山10日分には塗った為で最低5日間位の日数はおく必要がある。また片面のみ塗ったか合宿中かなりつぶれたダンボールかできた。これは両面を塗装した方がはるかにもちが良かったらう。

(ラッカー対シンナー = 1対1の割合で混合、ダンボール約40個塗装、ラッカー1.5L、シンナー(ラッカー用)1.5L使用)

(シンナーにはペイント用とラッカー用があり、ペイント用塗装の時はペイント用、ラッカー塗装の時はラッカー用を使用しなければならぬ)

- 梱包の時こたごたいたが、事前にはダンボール内のレーション、内容物、数量を示した半紙を用意しておき、梱包をするメンバーの責任範囲をはっきり決めてやればスムーズに行き、また今回ぬけていたエコーンがあったかどうする事によって防げるだらう。

梱包係反省

山田

- 塗料は 奥島 O.B. よりいたいた ラッカー を使用したか 臭いはぬけていた様だ。これは 大部分 入山 10 日 前に 塗った 為で 最低 5 日間 位の 日数 は おく 必要 がある。また 片面 のみ 塗ったか 合宿 中 かなり 腐った タンホール が できた。これは 両面 を 塗装 した 方が はずか に もちが いい だろう。

(ラッカー と シンター = 1 対 1 の 割合 で 混合、 タンホール 約 40 個 塗装、 ラッカー 1.5 ㍓、 シンター (ラッカー 用) 1.5 ㍓ 使用)

(シンター に は ペイント 用 と ラッカー 用 が あり、 ペンキ 塗装 の 時は ペイント 用、 ラッカー 塗装 の 時は ラッカー 用 を 使用 し なければ なら ない。)

- 梱包 の 時 にごたごた した が、 事前 に タンホール 内の レーション、 内容物、 数量 を 示した 半紙 を 用意 して おき、 梱包 を する メンバー の 責任 範囲 を はっきり 決め て やれば " スムーズ " に 行き、 また 今回 ぬけて いた エッセン が あった が とうする 事 によって 防げる だろう。

Essen 係 反省

山下 寺沢
中田 牧田 井口

これまで合宿で文句が出るのはいつも Essen 係であった。がつめんどもくたくたくとシゴかれ出るのも Essen 係である。このよう存係ではあるが、我々には、自信と信念で、もってこれを破りみんなの満足のため、Essen 係であるよう努力した。数々の新しい試みと言った。不審がなくなり賞賛の声があったのは、みんなの胃袋を十分満足させることが出来たと我々には信じている。

正月用嗜好品として、長野のす子をはじめ、吹州、井上(ナ)、扇野(3)佐藤(3)、笠原(2)、井口(1)、新明(部外生、農2)の諸氏が深山の差入れをいたいただき誠に感謝しております。みんなを代表しここに御礼を申し上げます。

以下準をおって総括します。

◎ 準備

例年のごとく今回の Essen 係に於ても動く者はよく動いたが、力のない奴は全く力まず、その為一部の者だけに負担がかかりすぎた。準備の時、井口がチームに何も知らず家に帰ったのはどういいう訳だろうか。残念である。チームワークは欠けていたと言えよう。

計画立案の際、装備係とはわりと話し合、だが、コンビボウ係とけんけんと言った良い程なされず、その為コンビボウの際だいがごたごたついたし、入山してからもなまった。深く反省してまいります。

◎ 計画立案の際打ち出した方針の反省

1) 1人/日/食以内の重量で 3000 Cal 以上の熱量をとる。
968.2kg で 3185.6 Cal とれた。改良すればまたまた軽くなると思われる。

正月用嗜好品としては差入れにいたった、日本酒(2升)、ウズキー(小)、お菓子、しるこ、ピーナツ、カキノタネ、スルメ、ウツボ、スケソウダウを持って行った。楽しい楽しい正月を迎えることができた。

2) 肉、野菜は乾燥して使用する。
乾燥肉は非常に評判がよかった。マトニ特有の臭いもなくなった。乾燥し、重量も考位になった(予定の倍には達しなかったが、まだ乾燥が可能であったから、もう少し軽くなると思う)乾燥するとゴムのようになるが若い者にはよい運動だと思える。

乾燥野菜は一考の余地がある。切つてそのまま干すと Bacteria 繁殖が心配しやすいし、変色するるので、一端水洗して干すとよい。また凍豆腐と同じ方法で一度凍らして干すのも可能らしい。

乾燥コブとゴボウが破れられるという問題点がある。重量は1/10位になった。

冬山名言集

一席 「雪アルトハイデルベルク」 針ノ木峠にて

—。—。—。—。—。—
—内トウ—

ニックネーム辞典

内トウ ---- タヌポンド・ハーレム・フースカ・スカポニ・
オンチド・ハーモニ

村田 ---- アラントロンジュニア

オキノ ---- 赤ブタ

佐藤(兄) ---- ドンガバチョ・コロリン

山田 ---- バイラ

寺沢 ---- 眠れる酒

ウトウ ---- マウンテンゴリラ (略 マンゴリ)

イカイ ---- 「アウンティンサムユー」 純情会会長
アモールシャーシャー

山下 ---- H.B. (腹ペコグマ or ハンサムボーイ)
鬼軍曹 独身会会長

笹原(兄) ---- 熊ゴロウ

笹原(弟) }
佐藤(弟) } ---- ホモブラサース

信州大学山岳会
伊那松本山岳部
非売品